

進路ニュース

令和5年9月1日発行

I. 進路指導部より

今年の夏休みの生徒目標は、3年1組の生徒が考えた「不撓不屈」でした。その意味は、「たわむこと無く、屈すること無く、強い意志をもって、どんな苦労や困難にもくじけないこと。」です。

皆さんの夏休みは、生徒目標に倣い、計画した通りに、強い意志をもって生活できたでしょうか。

「言うは易し、行ふは難し」という言葉もあります。7月中旬の三者面談では、夏休みや2学期以降の生活について、宣言した場面があったと思います。自分が言ったことに責任をもち、主体的に自らの行動を修正してください。楽しいと思う方向へ行くことは、非常に安易で楽なことだと思いますが、その時点で自分がたわんでしまっていることを自覚してください。

2学期が始まり、この後、クラスマッチを控えています。練習に没頭するのではなく、けじめをもって行動し、メリハリのある学校生活を送ってください。

II. 学校推薦型選抜について

8月29日（火）の昼休みに指定校一覧を進路指導室前に掲示しました。

内訳は、昨年度の学校に加えて新たに指定していただいた学校もあります。生徒の皆さんには、全ての情報を開示していますので、最終的に自分が行くべき大学であるのかどうかは、自分で判断してください。

現在、様々なところで安易な選択によるミスマッチが問題になっています。その結果、高校や大学の中退、就職した企業からの転職などが発生しています。このような問題を起こさないために、皆さんに守ってもらいたいのは、「進路選択の際は、第一志望を叶えることが大前提で、大学の知名度を最優先にしない」ということです。

自分の評定と大学の基準を照らし合わせ、この大学ならば指定校で入れるというのではなく、第一志望の大学が幸運にも一覧の中にあつたので、受験の申し出をするという流れであつて欲しいと思います。

また、今年度からは、四年制大学の学校推薦型選抜希望者に、志望理由書の提出を義務付けます。

指定校推薦を含めた学校推薦型選抜では、どの大学でも書類審査や面接試験が課せられ、きちんとした志望理由がないと不合格になります。他校では指定校推薦で不合格になった生徒もいます。

志望理由は、選考をってから考えるのではなく、選考の際の資料にしますので、担任の先生の指導により、申込書の提出期日までに必ず提出するようにして下さい。

現実的に、3年生の三者面談前になつても自分の将来設計を考えていない生徒がいます。

自分の将来を他人に決めてもらうのではなく、自分に向いているのは何かということをも1・2年生のうちから考え、遅くとも3年生になつた時点でどのような進路選択をするのかを明確にしておいて下さい。何のためにその学校へ行くのか、何を勉強したいのか、はっきりと宣言してください。

公務員になりたいのであれば、公務員になつて何をしたいのか、それをするためには、どの学校で何を学ばなければならないのか、を答えられるようにして下さい。

きちんとした考えであれば、生徒の皆さんの考えを尊重します。

【令和6(2024)年度入学生選抜に関する日程】3年生のみ ※**〆切は厳守**。

- ・推薦希望者説明会 9月4日(月)放課後 会議室 推薦入学申込書の配布と説明
- ・共通テスト出願説明会 9月5日(火)5・6限 受験案内の配布と説明
検定料(18,800円等)は、9月6日(水)から払い込む。
- ・共通テスト志願票の提出 9月12日(火)担任提出**〆切**
- ・推薦入学申込書(10月中に出願締切)の提出 9月13日(水)12:30担任提出**〆切**
- ・推薦入学申込書(11月中に出願締切)の提出 9月20日(水)12:30担任提出**〆切**

Ⅲ. 令和7年度入学生選抜(以下、新課程入試)について

2年生からは、新課程入試になります。※現在の3年生は読む必要がありません。

早速、11月進研記述模試から理社の受験が始まり、地歴公民の選択が今までと異なります。

地歴公民では、「地理総合、地理探究」・「歴史総合、日本史探究」・「歴史総合、世界史探究」・「公共、倫理」・「公共、政治・経済」・「地理総合、歴史総合、公共」の6つから選択して受験します。ただし、「地理総合、歴史総合、公共」は、3つの中から「地理総合、歴史総合」のように、2つを選んで受験します。これは、理科基礎で受験する場合に「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」の4つの中から2つを選んで受験することに似ています。**地歴公民の先生の指導に沿って、科目を選択してください。**

また、**情報Ⅰ**については、2月の進研共通テスト模試から始まります。現在、国立大学の97%、公立大学の44%が必須受験となっており、国公立大学志望者は、受験しなければなりません。しかし、公立大学の16%が利用しなかったり、必須となっている大学でも100点満点のまま利用する大学がそれほど多くなかったりしている現状を考えると、大きな影響が無いように思えますが、総得点の中の10点・20点の間に多くの受験生が密集する合否ライン付近では、非常に大きな差になりますので、**今から対策を始めましょう**。私立大学では、共通テスト利用選抜の選択科目として設定しているところが多く、必ずしも受験する必要性はありません。また、学習院大学のように、文学部の中で設定している学科と設定していない学科が混在している場合があるので、志望大学の受験科目は、事前にチェックしておく必要があります。

入試制度が変わる時は、科目によって難易度にバラツキが生じることが多いので、なるべく科目を減らさずに多くの科目を受験しておくことが大切です。

Ⅳ. 今後の進路への取り組みについて

①自分で体験すること

医療職を希望する生徒には、医療職体験を勧めます。過去に体験した生徒に聞いた話は、自分に向いている場合と、自分に向いていない場合の2通りです。

向いていると思った生徒は、進路選択を迷うことなく、突き進むようになりますが、向いていないと思った生徒は、もう一度進路選択をやり直すこととなります。そのような場合、多くの生徒は、異なる医療職を志すようになりますが、中には、全く分野の異なる経済経営系などの大学に変更する生徒もいます。**医療職体験などの体験には、早めに積極的に参加するようにしてください。**

②英検の受験

生徒の皆さんには、1学期の終業式に際に話をしました。**実用英語技能検定は、学校推薦型選抜の出願基準や一般選抜の加点対象になっている大学が多くあります。**第2回の合格通知は11月下旬です。